

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

11月号(NO38)通巻 188号

2021年11月10日(水)発行(毎月10日)

【農暦】グリーンジムと違って、農作業で足腰を鍛えよう！

○紅葉が少しずつ始まっている。陽射しがあると温かいが肌寒い日が多くなった。全くの冬着の人もいる。7日は立冬であったのだ。コロナ感染者は減り収束感がある。予断は許せないが少しでも開放感を味わいたいものである。

○詩吟の発表会が7日に行われた。コロナ対策は万全を期してのものである。バードゴルフの大会も18日に予定された。もとには戻れないにしても何となく普通になりたい機運を感じる。コロナ感染6次は来て欲しくない。不安付の開放感である。年の暮れには酒宴も？ありかなと思う。

○衆院選は終わったばかりなのに政治はいつもと同じが始まったように感じる。政権選択選挙は不発に終わったが、笠間では野党共闘の福島氏が、柏でも立憲が自民の桜田氏を破り、柏市長選では立憲の女性市長が誕生した。だが。反戦平和や温暖化、貧困対策などは危ぶまれる。当落を見ると変化は始まっている。森本卓郎お薦めの「マイクロ農業*1」で世の中を変えたものである。

○小豆、黒豆を収穫をした。マイクロトマト(実質はミニトマト*2)はまだ赤い実を付けている。トマトジュースにして楽しんでいる。ピーマンもまだ採れている。これからは剪定の時期である。草対策の耕起などほしい。やることは多い。先日、玉葱を植えた。絹さや種を頂いたので、今月末までには蒔きたい。カボチャの収穫もあった。キューイもある。物置の片付けも、いろいろある。凍土になるまでは畑の整理を続けたいと思う。グリーンジムと違って、農作業で足腰を鍛えようと思う。

○歯痛で7月から悩まされているが、まだ治らない。年内にはと思うが難しそうである。コロナ収束方向に、気候もいい。畑の草刈りや整理などしたい。少しずつだが、畑の景色が変わって来ているように見える。草の繁茂がないこれからは頑張りたい。(了)

*1次葉参照。*2マイクロトマトが自然交配してミニトマトに近いものになってしまった。毎年自生しており、多くの実を付ける。

【楽農】<畑>小豆、黒豆、薩摩芋(残り半分)、ピーマン、トマトなど少々収穫。

お茶の蔓の刈りとりなど、草刈り。

【楽市】イベントなど；詩吟(14・28・5日)川柳の会(4日)笠吟連発表会(7日)。



<散歩道で>
2日撮影



<黒豆の乾燥と紅葉の
ブルーベリー>8日撮影

【つぶやき=Tweet】森本卓郎の「マイクロ農業」のすすめ！

○たまたま本屋さんで“「マイクロ農業」のすすめ”のタイトルの本を発見？した。著者は経済アナリストの森永卓郎さんでした。テレビ・ラジオで面白い解説などで共感することがあったことや「マイクロ農業」の題名が気になったので購入することにした。目次を見ただけでも、気になるキーワードがいっぱいであった。今大事と思っていることばかりである。プロローグを読んだだけだが、今までやりたくても出来なかったことばかりである。共有したい問題意識が多いのに驚いた。



＜森永卓郎の本

○この本の目次の最後の7項目は“「環境を守る」循環型農業。ボランティアが農業を支援する「三富循環型農業」。「フードテック革命」にどう対峙するのか。農業はSGDsに密接につながっている。「ジェンダーの平等」を農業で実現する。農業の裾野を広げるSGDs。地産地消で大規模流通の無駄をなくす。”である。農業に地球温暖化、SGDsの解はあると思っていたので、いろいろ考えて来た項目ばかりである。今COP26の取り組み話題になっているが、地球温暖化、SGDsについて同じように考える人いたのが嬉しかった。それも行動の書である。この本で多くの人が「マイクロ」農業に関われることに期待したい。購読を薦めたい。

○またプロローグの中で、“私は＜略＞定期的にジムでトレーニングを続けてきました。それ以上に、農業を始めることで、最大級の筋肉を手に入れることが出来たのです。畑の草むしりは、ほぼスクワット、鍬を振るう作業は、格好の背筋トレーニングになるのです。”と云っている。これは当に“グリーンジム*3”のことである

○マイクロ農業のことであるが、小規模農業より小さい市民農園、趣味菜園の規模のものをマイクロ農業と称したのだと思う。市民や趣味でなく農“業”にしたところに意味があるのだと思う。都会に住む人の多くがマイクロ農業に関わることで、今ある多くの課題が解決し、さらに、社会経済改革に繋がわり、貧困、温暖化などSGDsの推進に繋がるというのである。基本は一次産業であると思っている。“北京で蝶が飛ばたくとニューヨークで嵐が吹く”の喩えがあるが、マイクロ農業が世界を変えるかもしれないのである。

○マイクロトマトとの出会いがあったので、マイクロが気になった。マイクロトマトは有機農研の人から種を頂き、もう10年以上、栽培(&自生)している。マイクロトマトは病気に強い、よく育つ。北京の蝶のではないが小さなものが大きく化けることはよくあることである。マイクロ農業も大きく化けて欲しい。津々浦々へである(了)

*3 グリーンジムは、イギリスで、日本でも活動があった。かつて菜園仲間とグリーンジムと称してやったことがある。

○断捨離考：衣類・資料雑誌類廃棄。整理整頓少しづつ。週1、月1励行で進めたい。

【後記】コロナ収束に不安は残るが、久振りの、酒席がいい。【HP; kogure農場に転載】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com